140周年記念特別号

秋高 同窓会 だより

平成25年９月１日、母校は創立140周年を迎え、
記念式典と祝賀会が盛大に行われた。

(2面)　ポラリス　菅　原　美　紗 氏
(4・5面)　平成25年度通常総会・収支報告他
(6～10面)　創立140周年記念関連特集
(13面)　深秋随想　山　根　義　秋 氏

学校創立	1873年(明治６年)９月１日
平成25年	創立140年
同窓会員数	37,625人(平成25年10月現在)
住所判明者	21,071人
在籍生徒数	860人（男子496人　女子364人）(平成25年10月現在)

ポラリス Polaris

人道危機にある人々に思いを馳せる

医師　菅原　美紗（平成7年卒）

数年前のある日、私はスーダン共和国・西ダルフール州に位置する人口約7万人のモルネイ避難民キャンプを去ろうとしていた。6か月間にわたる国際人道支援医療活動の任期が終了したのだ。長期にわたるダルフール紛争で村を追われ、国内避難民キャンプから身動きのできない人々。彼らは私との別れに際し、私がダルフールで働くことをサポートし送り出した私の家族に礼を伝えて欲しいと言い、その家族の元へ再び無事に辿り着けるようにと祈ってくれた。

その時現地スタッフの1人が私に言ったこと。「自分の土地で起こったことは自分たちの責任、そして運命だ。しかし、日本に帰ったらダルフールで起こっていることをできるだけ多くの人に伝えて欲しい。世界で自分たちのことを考えてくれている人がいると思うと、励まされる」

私は2006年から国際非政府組織「国境なき医師団」(Medecins Sans Frontieres: MSF）に参加。スーダン、イエメン、中国、パキスタンで医療活動を行った。MSFの多岐にわたる活動の詳細や現地の状況については、この8月に出版された『妹は3歳、村にお医者さんがいてくれたなら。』（合同出版、MSF共同著者として執筆）を是非ご一読頂けたらと思う。

幼少時、医師である母の影響で存在を知ったMSFは、1971年にフランス人医師とジャーナリストグループにより設立された。自分の見たとかけ離れた、しかし現実に起こっている人道危機の現状とどう向き合うべきなのか。この目で確認したいと、世界に飛び出す最後の一押しの勇気をくれたのは、気持ちを共有してくれた家族と当時の同僚たちの励ましだった。

武力紛争の現場で私は「非人道」とは何かを思い知らされた。市民の命を救うための診療所、医療スタッフ、さらに救急搬送中の車両までが武力勢力のターゲットになり攻撃を受けることさえあった。日々の診療は私に、人々の悩みの深さ、生きたいという思いの強さを突き付けた。彼らは想像を絶する精神的・肉体的・社会的虐待を経験し、その記憶を抱えながらも前に進もうと必死だった。

紛争地などの非人道的状況を、現地の人々の代わりに国際社会に証言すること、それこそが問題解決につながる。この理念の下MSFが設立され、現在も医療と証言がMSFの活動基盤となっている。

そのMSFに参加を決意したのは、世界に飛び出したい衝動と、連日メディアを通し知らされる人道危機の情報が合わさったためであった。日本に生を受けた個人として、また医師として、自分の日常

驚くことに、そのまさに同じ環境で、私は心が打ち震えるほどの幸せも経験した。力強く輝く目をしたこどもたち、自分たちの食事もままならない隣人たちからの手料理の差し入れ、乾いた大地から見る息をのむほど美しい満天の星空、一日の終わりにランタンの光が揺れる中、ゆっくりと自分と対峙する時間。

私はこれら全ての活動経験から、「グローバルヘルス」という概念を現実にあることとして確認した。それは、世界の人々の健康が「各国内の医療事情」のみによらず、むしろ世界で幅を利かせている国々の政治・経済力のパワーバランス、植民地の歴史、気候変動など多種多様な要素により影響されているということ。

その事実は、国際的政治・経済力を持つ日本が複雑に絡みあう糸を辿り、他国の人々の健康や暮らしに様々な影響を与え得ることも示唆している。

この視点を、私が現実に手を握り、共に泣き、笑った人々の暮らしを伝えることで、より多くの人々と共有したいと願う。漠然とでも、人道危機にある人々と私たちは、どこかで繋がりあっていると感じることができるように。

モルネイ避難民キャンプの様子

天上天下

母校の140周年記念事業に際して、高校の現状について考えさせられた。少子化になってからやや久しく、県内では高校の再編が行われた。今母校にもその流れは確実に影響を与えている▼筆者は四半世紀前に8年間母校に勤務した。当時は1学年10クラス450人の生徒がいて壮観だった▼世の趨勢で、入学してくる女子生徒が4割にもなり、女子クラスが生まれ、それなりに華やかさがあり、そのクラス担任という貴重な体験をさせてもらった▼そして自ら志願して、軟式野球部の部長をやらせてもらった。硬式は少しハードルが高いが、秋高で野球をやりたいと生徒がたくさん集まった。中学時代あまり活躍できなかった生徒たちだが、全国大会を視野に入れて練習させようと監督と話し合った。その結果、31年ぶりの全国大会出場の夢がかなった▼今母校は、1学年7クラスに縮小されている最中だ。少ない部員数で、各部とも大健闘していると思う。勉学の面でも好成績を上げており、今後とも文武両道の秋高の良き伝統を継承していってもらいたいと切に願っている。

総会記念講演要旨

オリンピックの舞台裏

NHK大阪放送局
アナウンサー
伊藤慶太 氏
（平成2年卒）

五輪放送は、JC（ジャパンコンソーシアム）という日本の放送機関であるNHKと民間放送が、その枠組みを超えて共同制作する放送機構の下、放送を出しています。ロンドン五輪2週間の日程の中、私の場合はほぼ毎日実況しました。競泳、フェンシング、アーチェリー、ボクシング、カヌー、バレーボール、ビーチバレーの全部で7競技。このうちアーチェリーは、自分自身にとってこれまで放送する機会のなかったスポーツ。見たことも現場にいったこともない競技を放送することがあるのが五輪なのです。

担当が決まるのがほぼ1か月前。それから資料を集め、過去の映像を見ながら準備をしていきます。今回は、しかもアーチェリーは、会場に放送席がなく、（現場に放送席を設営するとコストがかかるので、全部の競技が会場から放送しているわけではない）IBCという国際放送センターのブースの中で、モニターだけを頼りに放送します。その中で、アーチェリーのメダルの実況をすることができました。

フェンシングについては、前回の北京五輪で初めて実況しました。今回のアーチェリーと同様、北京ではIBCのブースの中で放送し、メダルを獲得しました。今回のロンドン五輪でもメダル獲得の期待が高いということで、会場に放送席が設けられ放送しました。やはり、当然のことながら、現場から伝えられるのは臨場感が全く違います。そして、フェンシングでまたしてもメダル獲得の瞬間を実況できる幸運に恵まれました。

ロンドン五輪で一番印象に残ったのは、競泳200mの平泳ぎです。五輪3大会連続の金メダルを目指していた北島康介選手。私はこのレースのインタビュアー担当でした。前人未踏の金メダルをとったら、何を聞いたらいいのか、何を聞かなくてはならないのか、担当が決まってから考え続けてました。

ところが、大会序盤に行われた100mでは5位。200mの予選でも北島選手本来のいい泳ぎではありません。レースを見た解説者も、金は難しいとの見方をしていました。そこから、まるっきり逆の質問も考え始めなくてはなりませんでした。あの北島が負ける……敗者・北島に何を語ってもらうのか、何を語ってくれるのか。普段のスポーツ中継では、優勝者にインタビューすることが当たり前で、負けた人に聞くということはまず、ありません。これも、五輪など大きな国際大会ならではです。レースは、北島選手が世界記録を上回るペースで引っ張りました。最初からハイペースでいって、逃げ切る作戦です。150m付近からつかまって、結局、最後は立石選手にも抜かれ4位。メダルを逃しました。

レース後のインタビュー、私は「素晴らしい挑戦でしたね」と切り出しました。北島選手は「今、自分のできることの精一杯でした」と答えました。これまでの功績をたたえながら、敗者となってしまった北島選手への思いやりを持とうという気持ちで接しました。無責任な言い方ですが、これでよかったかどうかはわかりません。

私たちの仕事に正解を見出すことは、なかなか難しいことです。自分たちが現場で感じた興奮、感動をいかに適切にふさわしい言葉で伝えるか。何度やっても、もっとこういう伝え方があったのではないかと思う、その繰り返し。スポーツのどんな競技でも同じ試合、ゲームはありません。毎回毎回、違う展開であることが、伝える側からすると面白さでもあり、難しさでもあります。

これだけの劇的な場面、感動的な場面に居合わせられたその喜び、それを余すところなく見ている人たちに伝えたい、その一心です。そのためにアナウンスメント（声、トーン、滑舌）、解説者（いろいろな方がいます）との会話力、プレーを見抜く洞察力、そこに反応してすぐに言葉にできる瞬発力、今後を予測していく勘。さまざまな能力が必要です。適切な、ふさわしい言葉で、トーンで、熱で伝える……その道を極める日々が続きます。

医療法人正和会
南秋田眼科
医師
薄田　寿
（昭和56年卒）
潟上市昭和大久保字街道下106－5
Tel. 018－877－7117
Fax. 018－877－7482
http://www.seiwakai-net.com

秋田の美味しいお土産、揃ってます。
秋田駅ビル　トピコ2F
㈲本山物産
本山 秀昭
（昭和36年卒）

創業明治九年老舗の味
料亭 志田屋
志田豊忠
（昭和36年卒）
〒010－0921　秋田市大町三丁目5－11
TEL 018－823－0432（FAX兼）

会費収入の先細りに現実味

25年度 通常総会　100万円減額予算を承認

秋田高校同窓会の平成25年度通常総会は5月25日、秋田市の秋田ビューホテルで開かれた。総会では平成24年度の決算を認定するとともに、平成25年度の事業計画と一般会計予算案を原案どおり承認した。また、副会長に新たに佐野元彦氏（昭和49卒）を選んだ。

総会の出席者はおよそ120人。開会に先立ってこの1年間に他界した同窓諸氏に黙とうを捧げた。CDの吹奏楽にあわせて校歌を全5番まで斉唱した後、豊口会長が挨拶に立った。

この中で豊口会長は、140周年記念事業募金について協力のお願いと謝意を表明するとともに、9月1日の学校創立記念日に発行予定の『秋高創立百四十周年記念誌』と『同窓会員名簿第40号』の刊行に大きな期待感を示した。

また、高橋校長は学校の近況について少子化の影響で現在の1年生と2年生は7クラスに減っているが、全校860人の生徒たちは勉強だけでなくスポーツや文化部など部活にも懸命に頑張っていると報告した。

豊口会長の進行で引き続き議事に移り、初めに同窓会事務局から平成24年度の会務報告が、また各常置委員会からは事業報告があった。次に平成24年度一般会計決算について審議した。この中で収入の根幹をなす会費収入が1156万円と1200万円台を割り込んだことが明らかになった。会費収入が1200万円台を割り込んだのは、平成9年度の1082万円以来15年ぶりのことである。

このほか基金会計、名簿会計、退職金積立会計、資料館整備積立会計の4特別会計決算について事務局から説明があり、これに対して監事からは各予算の執行は適正だったとする監査報告書が読み上げられた。

質疑応答では会員の間から事務局の円滑な運営や各年次と同窓会を結ぶ努力の強化を求める声が相次いで出た。

審議の結果、これらの会務報告と事業報告を拍手で承認したほか一般会計・特別会計の各決算も満場一致でこれを認定した。

次に総額で1860万円にのぼる平成25年度一般会計予算案と事業計画について審議した。このうち一般会計予算案は収入の大部分を占める会費収入を前年度より100万円少ない1100万円と見込み、資料館整備積立会計廃止に伴う繰入金70万円余を新たに計上した。

一方、支出では事業費の中の「同窓会だより発行費」に支出項目の変更があった。これまで印刷費や封入料金などとともに発行費に計上していた郵送料をはがき・切手代などと同じ事務費の中の通信費に移した。これは現行会計基

平成24年度　一般会計決算報告書（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）

〈収入の部〉　（単位：円）

項　目	24年度予算額	24年度決算額	増　減	摘　　要(内容説明含む)
1.入　会　金	2,246,400	2,239,200	△ 7,200	311名×7,200円
2.会　　費	12,000,000	11,564,000	△ 436,000	延べ5,782名
3.協賛広告費	400,000	390,000	△ 10,000	39コマ
4.会 議 収入	950,000	1,491,000	541,000	総会×1回、理事会・運営×2回、常置委員会×4回
5.雑　収　入	10,000	573	△ 9,427	
6.繰　入　金	0	1,000,000	1,000,000	名簿会計から繰入
A.当期収入合計	15,606,400	16,684,773	1,078,373	
繰越金	3,082,334	3,082,334	0	
B.収入合計	18,688,734	19,767,107	1,078,373	

〈支出の部〉　（単位：円）

項　目	24年度予算額	24年度決算額	増　減	摘　　要
1.事業費	**6,880,000**	**6,602,812**	**△ 277,188**	
だより発行費	4,600,000	4,414,636	△ 185,364	だより印刷代、封入および送料、封筒印刷
母校協力費	1,000,000	1,000,000	0	活動助成費
新入会員歓迎費	700,000	594,256	△ 105,744	入会記念品・祝菓、栞、激励者謝礼・記念品
年次強化費	220,000	87,460	△ 132,540	記念同期会来館打合せ会議、若年次同期会支援
事務局整備費	110,000	425,620	315,620	HP更新料、HPﾄﾞﾒｲﾝ料、電気ポット、他
資料館整備費	250,000	80,840	△ 169,160	秋高祭展示、卒業ｱﾙﾊﾞﾑ・他
2.会議費	**3,550,000**	**3,639,796**	**89,796**	
総会費	900,000	1,171,338	271,338	総会資料、写真、ﾊﾟﾈﾙ、講演謝礼、花束、魁広告、他
運営委員会費	800,000	784,670	△ 15,330	運営委員会×2回、理事会×2回
委員会費	350,000	290,850	△ 59,150	常置委員会×11回
支部関係費	1,500,000	1,392,938	△ 107,062	年次同期会、支部総会、歓迎会、出席旅費、宿泊費、寸志
3.事務費	**5,050,000**	**4,718,381**	**△ 331,619**	
給料・手当	3,100,000	2,956,800	△ 143,200	嘱託手当、事務補助手当、ｱﾙﾊﾞｲﾄ
消耗品費	250,000	275,529	25,529	事務消耗品、文具、各用紙代、ｶﾞｽｷﾝ交換、コピー機リース料、他
印刷費	250,000	299,174	49,174	洋形窓付封筒、長3封筒、私製葉書、会費払込取扱票×2回、他
通信費	400,000	326,273	△ 73,727	切手、官製葉書、電話ﾌｧｸｽ料金、ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ回線、郵便料金
手数料及び広告料	800,000	819,966	19,966	会費、協賛広告、他振込手数料、野球広告×4回、年賀広告
機器運営費	250,000	40,639	△ 209,361	ｲﾝｸｼﾞｪｯﾄﾌﾟﾘﾝﾀｰ、点火式ｽﾄｰﾌﾞ
4.基金	**0**	**0**	**0**	
同窓会基金	0	0	0	
5.雑費	**200,000**	**192,385**	**△ 7,615**	
慶弔費	100,000	37,770	△ 62,230	ご霊前、祝電
雑　費	100,000	154,615	54,615	手拭、残高証明書発行代、タクシー代、他
6.退職金積立	**210,000**	**210,000**	**0**	
退職金積立	210,000	210,000	0	
7.資料館整備積立	**100,000**	**100,000**	**0**	
資料館整備積立	100,000	100,000	0	
8.予備費	**2,698,734**	**0**	**△ 2,698,734**	
予備費	2,698,734	0	△ 2,698,734	
9.繰　出　金		**1,000,000**	**1,000,000**	名簿会計へ繰出
C.当期支出合計	18,688,734	16,463,374	△ 2,225,360	
A-C.当期収入差額	△3,082,334	221,399		
B-C.次期繰越	0	3,303,733		

準に沿って科目変更を行ったものである。これら収支に関して特に質問はなく、平成25年度一般会計予算案と事業計画は原案どおり承認された。

総会は最後に豊口会長から提案された役員人事を議題とした。総会に先立って開かれた理事会の決定に基づき、体調不良を理由に退任を申し出ていた山谷浩二副会長（昭和20④卒）に代わって、後任の副会長に佐野元彦氏（昭和49卒）を推薦した結果、満場の拍手でこれを承認した。山谷氏は顧問に就任した。

総会に引き続きNHK大阪放送局アナウンサー伊藤慶太氏（平成2卒）が「オリンピックの舞台裏」と題して記念講演を行った。講演要旨は3ページに掲載。

同窓会員向け新サービス開始

☆軽印刷機の利用

コピー感覚で使用できる軽印刷機（リソグラフ）を事務局に設置しました。事務局が取り扱う多量の印刷物の経費節減につながるだけでなく、年次会員に対するお知らせなどの印刷のほか会員自身の利用も可能で、枚数の多い印刷物に便利です。

用紙の大きさはA3判までで、年次・支部のほか会員個人も実費（用紙は各自持ち込み。1製版50円）で利用できるようにしました。

☆郵便物の発送代行

同窓会事務局は郵便局会社と大口利用契約を結んでいるため郵便物を特約料金で発送できます。これを会員向けサービスにも拡大し、同期会の案内状発送などに利用してもらうことにしました。

料金は発送する数にかかわらず、1通当たり定形郵便は50グラムまで56円、定形外郵便は50グラムまで60円、100グラムまで61円、150グラムまで62円などです。この契約料金で同窓会事務局が発送代行しますので、どうぞお気軽にご相談ください。

なお、軽印刷機利用、郵便物の発送代行とも、個人の利用はその年度の会費納入者限定とさせていただきます。ご了承ください。

平成25年度 一般会計予算書（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）

<収入の部>　（単位：円）

項目	25年度予算額	前年度予算額	増減	摘要
入会金	2,232,000	2,246,400	△ 14,400	7,200円×310名
会費	11,000,000	12,000,000	△ 1,000,000	2,000円×5,500名
協賛広告費	400,000	400,000	0	だより広告　10,000円×20コマ×2回
会議収入	950,000	950,000	0	総会、理事会・運営、常置委員会懇親会参加費
雑収入	10,413	10,000	413	普通預金利息
繰入金	703,854	0	703,854	資料館整備積立会計廃止による繰入
繰越金	3,303,733	3,082,334	221,399	前年度から
収入合計	18,600,000	18,688,734	△ 88,734	

<支出の部>　（単位：円）

項目	25年度予算額	前年度予算額	増減	摘要
1.事業費	4,700,000	6,880,000	△ 2,180,000	
だより発行費	2,000,000	4,600,000	△ 2,600,000	窓付封筒・だより印刷費、封入料金
母校協力費	1,000,000	1,000,000	0	活動助成費
新入会員歓迎費	700,000	700,000	0	栞、入会記念品、激励者謝礼、茶話会、他
年次強化費	200,000	220,000	△ 20,000	若年次同期会開催支援
ホームページ維持費	200,000	0	200,000	ドメイン料、委託料、他
資料室運営費	100,000	110,000	△ 10,000	企画展開催協力費、他
広告費	100,000	0	100,000	野球・総会・年賀新聞掲載広告
羽城館維持管理費	400,000	250,000	150,000	修繕、ワックスがけ他
2.会議費	2,700,000	3,550,000	△ 850,000	
総会費	900,000	900,000	0	総会資料、講演謝礼、他
運営委員会費	800,000	800,000	0	運営委員会、理事会
委員会費	400,000	350,000	50,000	常置委員会、合同委員会
支部関係費	600,000	1,500,000	△ 900,000	年次同期会・支部総会・歓迎会参加費
3.事務費	8,320,000	5,050,000	3,270,000	
給料・手当	2,900,000	3,100,000	△ 200,000	嘱託・事務補助・アルバイト手当
消耗品費	450,000	250,000	200,000	事務用品、用紙、コピー機リース料、定着器、他
印刷費	200,000	250,000	△ 50,000	各サイズ封筒、会費払込取扱票等印刷代、他
通信費	2,950,000	400,000	2,550,000	切手、ハガキ、電話ファクス料金、インターネット回線、郵送料
手数料	720,000	800,000	△ 80,000	会費・協賛広告費等振込手数料、他
機器運営費	100,000	250,000	△ 150,000	機器修理、他
旅費・交通費	1,000,000	0	1,000,000	旅費・交通費、タクシー代、宿泊費
4.基金	0	0	0	
同窓会基金	0	0	0	
5.雑費	150,000	200,000	△ 50,000	
慶弔費	100,000	100,000	0	各種慶弔
雑費	50,000	100,000	△ 50,000	残高証明書、茶・洗剤、他
6.退職金	180,000	210,000	△ 30,000	
退職金積立	180,000	210,000	△ 30,000	退職金積立会計へ
7.資料館	0	100,000	△ 100,000	
資料館整備積立	0	100,000	△ 100,000	
8.予備費	2,550,000	2,698,734	△ 148,734	
予備費	2,550,000	2,698,734	△ 148,734	
支出合計	18,600,000	18,688,734	△ 88,734	

平成25年度 年会費納入のお願い

会員の皆さまには日頃から同窓会活動に深いご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、同窓会予算収入のほとんどを占める年会費につきましては、近年予算達成率が下落傾向にあり、円滑な同窓会運営に懸念が生じる事態となっています。つきましては、未納の会員におかれましては、誠に恐れ入りますが、同封の「払込取扱票」で納入くださるようお願い申し上げます。

年会費に関する取り決めは以下のとおりです。

1. 年会費は会員1人当たり2,000円とする。
2. 年会費の請求は単年度のみとし、過年度分は請求しない。
3. 母校卒業後4年間は年会費の納入を免除する。

140周年特集

母校創立から140周年

新たな歴史へ　粛然と記念式典

母校は今年9月1日、明治6（1873）年の創立から数えて140年の節目を迎えた。創立140周年を祝う記念式典は開校記念日の同日、秋田県民会館に来賓・同窓会員・教職員・生徒・保護者らおよそ1500人が出席して、厳粛な雰囲気の中で行われた。母校は次の1ページを刻む新たな歴史へと踏み出した。

母校の始まりは明治6年9月1日、秋田市東根小屋町日新学校内に洋学科を増設、洋学校と称した明治時代の黎明期にさかのぼる。太平学校、秋田県師範学校、秋田県立秋田中学校などと校名を変えながら明治、大正、昭和の動乱期をくぐり抜け、現在の秋田県立秋田高校と改称したのは、戦後の混乱がまだ色濃く残る昭和28年のことであった。

校舎も東根小屋町から手形校舎（現・秋大教育文化学部敷地）を経て、終戦直後の校舎難から石油学校、国民学校での仮住まい、秋田駅前の旧陸軍第17連隊兵舎の代用と苦難の連続であった。

手形中台の現在地に移転して既に51年。元号は昭和から平成に変わった。明治から平成に至るこの140年の間に母校を巣立った卒業生は3万7千人を超えた。

時折薄日の差す記念式典当日の朝、県民会館入口に通じる通路には出席者を迎える生徒たちの長い列ができていた。次々とやってくる出席者一人ひとりに「おはようございます」「ありがとうございます」と大きな声をかけて感謝の気持ちを表した。統率のとれた生徒たちの爽やかな挨拶に出席者たちも思わずにっこり。「おはよう」「ご苦労さま」と言葉を返すすがすがしい光景が繰り広げられた。

見事な生徒主体の運営　品格ある式典に賛辞

式典は午前10時、吹奏楽部による「秋田県民歌」の演奏で幕を開けた。進行はすべて生徒会が担当、ともに2年生の武田詢生徒会長、豊島菜々子副会長の司会で物故者に黙とうを捧げた後、3年生の前行事企画管理室長吉田匠汰君が力強い言葉で開会宣言を行った。

高橋貢校長（昭和47卒）は式辞の中で、まず秋高140年の歴史を振り返り、関東大震災や先の大戦など過去幾多の困難を乗り越えて時代を切り拓いてきた先人の功績をたたえた。

そしてドイツの哲学者カントの墓碑銘「ああ、いかに感嘆しても感嘆しきれぬものは、天上の星の輝きとわが心の内なる道徳律」を引き合いに出して、生徒たちにこう訓示した。

「これからいかなる困難に遭遇しても、どんなにつらい状況に陥っても、常に自分の内なる道徳律を自覚し、人間を信じて生きていってほしい」

続いて挨拶に立った豊口祐一同窓会長（昭和34卒）が、「母校は同窓生にとって青春の心のふるさと、これからも県中等教育の核として発展を遂げることを期待している」と述べた。

来賓を代表して米田進県教育長（昭和45卒）は、現在の手形中台校舎から巣立った卒業生が既に2万2500人に及んでいる点に触れ、今ほど校歌にある「おのれを修めて世のためつくす」という言葉が重要な意味をもつ時はないと祝辞を述べた。

さらに生徒を代表して3年生で前生徒会長の佐々木捷君が挨拶。佐々木君は「地球温暖化などいま地球全体が大きな危機に直面しており、私たち秋高生に求められているのは日本だけでなく世界で活躍することだ」と力強く決意を述べた。

式典は同窓会や学校発展に功労があった丸山健氏ら8人を表彰、最後に全員が起立して吹奏楽部の演奏で校歌を全5番まで斉唱し、およそ40分で終了した。

休憩をはさんで橋本五郎読売新聞特別編集委員（昭和40卒）が「真のリーダーとはどうあるべきか」と題して記念講演を行った。

記念式典の運営については準備から当日の運行まで生徒たちが主体的に関わった。その式典は簡素にして品格があり、生徒たちの清潔感あふれる挙措、けれん味のない進行には出席者の間から賞賛の声が上がった。

記念式典が無事幕を閉じると、会場からはひときわ大きな拍手が生徒たちに送られた。

笑顔あふれた記念祝賀会

記念祝賀会は会場を秋田キャッスルホテル放光の間に移して午後1時半から開催された。

出席者は当日飛び入りの26人を含む440人。県選出衆参院議員、県議会議員をはじめ県教育委員会、歴代校長、県内各高校長、学校評議員、

水戸一高知道会などの来賓のほか同窓会員、ＰＴＡ関係者、現・元の教職員など多士済々、にぎやかな顔ぶれとなった。

初めに豊口祐一会長が「記念式典はとても感動的だった。この祝賀会では秋高の過去、現在、未来を大いに語り、懇親を深めてほしい」と挨拶した。来賓の祝辞に続いて、３年前に結成した応援団のＯＢ会「紫紺の会」のリードで全員で校歌を斉唱した。紫紺の会の各メンバーは現役当時を彷彿とさせる力強い身のこなしで校歌５番までしっかり演技、会場から盛んに拍手を浴びた。

乾杯して祝宴に入ると、会場はほどなくテーブルからテーブルへ往来が激しくなり、広い放光の間はしばしば交通渋滞をきたす盛り上がりとなった。至る所で会話がはずみ、酒を注ぎ合い、笑顔がこぼれ、笑い声が絶えなかった。

最後は再び紫紺の会のリードで、肩を組み合って校友会歌の大合唱。昭和13年卒、93歳の菅原繁雄先生を最年長に平成13年卒の若い同窓会員まで幅広い世代の卒業生が一堂に会し、母校の長い歴史をあらためてかみしめた祝賀会であった。

『百四十周年記念誌』刊行 希望者に実費頒布

記念式典とともに周年事業の中核に位置付けていた『秋高創立百四十周年記念誌』が９月１日刊行した。

平成15年度から同24年度まで、１３０周年以降のこの10年間の営みを学校編と同窓会編に分けて克明に記録したものである。

記念誌はＢ５判２２７ページ。学校編は新たな教育の取り組みや国内外の学校間交流、進路指導状況、ＰＴＡ活動などのほか運動部と文化部すべての部活動について全県大会以上の活躍記録を年表にまとめている。また、毎年生徒主体で運営している運動会や秋高祭など学校行事に関する項については、生徒会役員が分担して執筆したことも新しい試みとして特筆に値する。

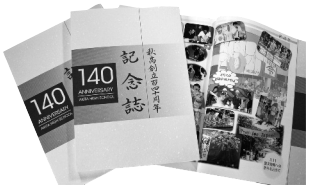
一方、同窓会編は相次ぐ校舎の変遷を物語る石碑や古い新聞記事をグラビアにまとめた。さらに東根小屋町校舎から現在の校舎に至るまで折々の時代に立ち会った同窓生各位から当時の思い出や世相を綴ってもらい、「わが青春…学びやと共に」に収録した。

「文武両道…若かりし日々」は、ＯＢ会の活動が今なお活発な運動部と文化部を特集。

陸上・柔道・硬式野球・剣道・吹奏楽・生物・文芸の各部ＯＢに自由闊達な青春時代と今を見つめてもらった。紙数に限りがあり、実績をもつ他の部活動まで拡大できなかったが、母校の歴史を部活動の記憶から逆照射した特集は読み応え十分、一読の価値がある。

記念誌は２１００部印刷し、執筆者や写真提供者、同窓会関係機関のほか記念式典に出席した来賓・同窓生・学校教職員・全校生徒に記念品として贈呈した。

周年記念誌はこれまで記念式典出席者にほぼ限定して配布してきた経緯があり、式典に出席できない会員の目に触れる機会はほとんどなかった。こうした事情を踏まえて１４０周年実行委員会は、一人でも多くの会員に母校の歴史と現状を知ってもらおうと、希望者に対して今回初めて『百四十周年記念誌』の実費頒布を行うことにした。



ホームページ上には既に頒布の告知を掲載しているが、価格は１冊１２００円（送料込み）、申し込み方法は郵便局またはゆうちょ銀行への事前振り込み（振り込み手数料は自己負担）となっている。

口座番号「０２２７０－６－１３６５３１」

加入者名「秋田県立秋田高等学校同窓会」

に振り込み、振り込み確認後10日前後で秋田協同印刷から郵送される。

頒布は先着順で在庫がなくなり次第終了となる。

『会員名簿第40号』発行 報告と訂正

『同窓会員名簿第40号』は９月１日の創立１４０周年記念日を前に、予定どおり発刊することができました。年次名簿委員・協賛広告掲出者はじめ会員の皆さまのご協力に感謝申し上げます。

今回の名簿第40号は入札から紙質選定・編集に至るまで名簿委員会が主体的に関わりました。Ａ４判化やインデックスの採用・管理番号の付記など知恵を出し合い取り組みました。

しかしながら、遺憾なことに発送後、以下の記載漏れおよび重大な誤記が発覚いたしました。ご本人には早急にお詫びしましたところ、寛大なお心で接していただきました。

このことは事務局から提出されたデータの確認不足によるものですが、ここにあらためてお詫び申し上げます。購入者の方々には次のように訂正をお願い致します。

①追記

【12ページの「顧問」】

畑澤潤一先生（元校長）

榊田　清先生（元校長）

②削除

【70ページの「物故者」】

武田　暢様

③追記

【70ページの「昭和16年卒会員」】

武田　暢様　011－0931秋田市将軍野１－５－43　電話018－845－3301

名簿は予約注文制で発行しましたが、事務局にまだ多少お分けできる分があります。ご希望の方は、事務局までお問い合わせください。

お断り

創立１４０周年関連の特集を組んだ関係で、今号は「恩師訪問」と「文芸作品」を休止しました。ご了承ください。

140周年特集

三回忌に寄せて

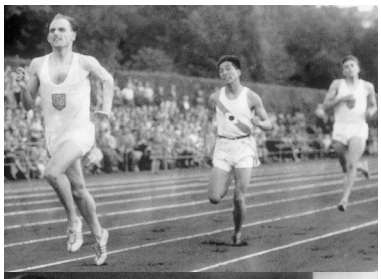
初の母校五輪代表選手 陸上・鈴木重晴さんをしのぶ

かつて母校からオリンピック選手が誕生し、その活躍ぶりに日本中が沸き返ったことをご存じだろうか。

時代は「もはや戦後ではない」が流行語となった57年前の昭和31年にさかのぼる。メルボルンオリンピックの陸上競技男子800mと1600mリレーに日本代表として出場した鈴木重晴さん（昭和27卒）がその人である。抜群のスピードでトラックを駆け抜ける名スプリンターとして鳴らし、その後指導者としても輝かしい実績を積み上げた鈴木さんの存在は母校の誇りであり、わが国中長距離スポーツの歴史を語るうえで忘れてはならない人物である。

あれから半世紀以上、母校から鈴木さんに続く五輪代表選手は生まれていない。

鈴木さんは晩年闘病生活を送りながら後輩の指導に心を砕いたが昨年2月27日、脳梗塞のため78歳で鬼籍に入った。来年2月の三回忌を前に、陸上競技部の後輩お2人にありし日の鈴木さんを回想していただいた。



〔上〕日独米国際陸上800mで日本新記録を樹立（昭和30年、西独カッセル；中央が鈴木氏）

〔下〕昭和31年、メルボルン五輪日本代表に選ばれる（前列右が鈴木氏）

黒光りする足の見事な美しさ

陸上競技部OB　長野　佳司（昭和29卒）

昭和26年4月、私は新制高校として秋田中学から改称した秋田南高校に入学した。中学3年の時の全県中学陸上砲丸投で3位だったので、陸上競技部に入部を申し入れたところ、「5月の中央地区大会の成績を見てから」との返事が返ってきてびっくりした。結局、同大会で私は砲丸投・円盤投・槍投の3種目とも1位になり入部が許された。

3年生は短距離の武田孝男さん、中長距離の鈴木重晴さんに相沢進さんの3人、2年生も4、5人しかいなかったのに新入部員は9人であった。顧問の先生がグラウンドに来ることもなくコーチもいなかったので練習内容は先輩たちが作った。練習場所は新装なった公認県営陸上競技場（現在の秋田大学グラウンド）で、駅前校舎から歩いて通っていた。そこは他校の陸上競技部のほか母校ラグビー部の練習場所でもあり、各校各部が入り乱れていつも活気にあふれていた。

後に鈴木先輩がOB会報に寄せた一文には、当時の練習について旧17連隊兵舎の建物を使っての合宿は快適ではなかったが実に楽しいものであったこと、長靴を履いて雪道の町の中を走り回る冬期間の持久力強化練習はきつかったが、以後の足腰の強化には非常に有効であったことなどが書き記されていた。

武田・鈴木の両先輩の練習は、既に全県トップの位置にいたのでさらに前進するためとことん自分を鍛えぬく毎日で、終わってからの足もみは新入生の役目だった。その中でも鈴木先輩の足の美しさは見事なものだった。たっぷり走った後のふくらはぎの筋肉は、手で触ってみてもそれと分からないほど柔らかく弾力があり、その色はチョコレート色でまさに黒光りしていた。いったん走り出すと流れるような足運びと蹴りでスピードを上げていく見事なストライド走法で、サラブレッドさながらの走りだった。わずか1年のお付き合いではあったが、以後先輩の名声が高まるにつれ、一緒に練習した後の足もみを自慢できることは後輩として鼻高々であった。

鈴木先輩は戦後の新教育制度（六三三制）に変わる直前の昭和21年、秋田南高校併設中学に入学、野球部に所属していたが高1の5月、名物の新屋大橋折り返し全校マラソンで敗れた悔しさから陸上に転向した。短距離から長距離まで何でもこなすオールマイティだったが、その才能が一気に花開いたのは3年生の時であった。400mと800mで全県・東北大会ともに優勝、夏のインターハイでは両種目とも3位入賞、秋の東西対抗400mで初めて全国優勝した。

卒業後は先輩の国体400m優勝者高橋慶治氏（昭和16卒）の助言で早稲田大学に進学し競走部に入部した。早稲田進学後は在学中の4年間に中距離4種目（400m、800m、1000m、1600mリレー）で日本新記録を樹立するなどめざましい活躍を見せた。このうち800mの1分51秒8の記録は3年時の昭和30年、ドイツのカッセルで行われた日独米国際陸上でたたきだしたものだ。これらの成績が評価されて鈴木先輩は翌昭和31年のメルボルンオリンピック日本代表に選ばれた。オリンピックでは得意の800mと1600mリレー（4×400m）に出場、

惜しくもメダルには届かなかったが、初のオリンピック代表選手として母校の歴史に燦然とその名を刻んでいる。

また、鈴木先輩は早稲田在学中、箱根駅伝にも4年連続で出場し総合優勝1回、区間賞2回を獲得するなど中距離から長距離までこなす天才的ランナーとして鳴らした。

社会人になってからも鈴木先輩は中村監督の下で長年コーチをされた後、昭和61年から平成15年に喉頭がんの手術で声帯を失うまで、17年間にわたって早稲田大学競走部の監督を務められた。この間、とりわけ大学駅伝の隆盛に力を尽くされた一方、秋田県出身の長距離ランナーの育成にも大きく貢献された。

鈴木先輩は平成20年のOB会総会に東京からわざわざ参加され、筆談ではあったがお元気な姿を見せてくれた。しかし昨年2月、脳梗塞のため不帰の人となり、われわれ陸上競技部の後輩たちは大きな心の支えを失ってしまった。痛恨の極みである。

三回忌を迎えるにあたり、あらためて鈴木先輩の功績に感謝の誠を捧げるとともに、心からご冥福を祈りつつ天国から後輩たちの活躍を見守ってほしいと願うものである。

「箱根」の厳しさ教えられた

陸上競技部OB　三船　新次（昭和31卒）

鈴木先輩は私が高校に入学する以前の卒業ですので、初めてお目にかかったのは昭和29年、2年の時に盛岡市で行われた東北大会の時でした。

この頃、一般と高校は同時開催で、早稲田大学の選手として活躍していた先輩は一般800mに県代表で出場していて、後輩の私に「がんばれよ」と声をかけてくださいました。

圧倒的なレースでテープを切る先輩にただただ感動したものでした。

それ以来、夏休みで帰省されるたびに鈴木先輩から練習に誘っていただき、八橋で一緒に走ってはアドバイスをいただくことができました。

箱根駅伝がまだテレビではなくラジオで中継されていた時代、早稲田大学の中村清監督が伴走車から歌う「都の西北」に激走する鈴木先輩には胸が熱くなり、箱根へのあこがれは募るばかりでした。

幸いにして私も東京教育大学（現・筑波大学）で箱根を走る機会を得て6区山下りを走りました。昭和34年の箱根駅伝、前日ゴールの時間差スタートで2番目が私で3番目に早稲田の順で、その早稲田の伴走車に先輩はコーチとして乗っておられました。

早稲田の黒川澄男選手に湯本温泉街に入って追いつかれ、抜かれたのですが、追い抜いていく際に先輩曰く「ゆっくり来いよ」でした。

黒川選手は区間新記録、私は何とか6番目でした。

私が秋田中央高校で陸上競技部監督を務めた時代、昭和58年に京都の全国高校駅伝で準優勝した時のメンバーの中に池田克美という選手がいました。後に早稲田にお世話になったのですが、鈴木先輩には一方ならぬ恩義を感じております。

池田は全国高校駅伝1区区間賞やインターハイ5000m3位の実績がありましたので、早稲田の競争部員たちが監督である先輩に「秋田にいい選手がいるじゃないですか、是非早稲田に連れてきてください」と話したことから、先輩は何度となく秋田に足を運ばれました。

内定していた実業団には大学卒業まで4年間待ってもらい、ご両親には経済面での心配を鈴木さんが面倒見ることで了解を得、晴れて早稲田大学競走部に入れていただくことが出来ました。昭和62年のことでした。

この池田は1年生でいきなり箱根1区に抜擢され、途中腹を押さえたりして周囲を心配させたものの、見事区間賞を獲得して期待に応えました。

この夜の鈴木さんからの電話は、「あのヤロー、やりあがったよ！」でした。

就職についてもしがらみのないリクルートへお世話していただきました。

平成3年に東京で行われた世界陸上選手権に出場した池田の所属は、「リクルート秋田」でした。後に池田はNECに移り、早稲田・SBで名マネージャーと賞賛された村尾慎悦さん（大館鳳鳴高出身）と一緒でしたし、結婚の媒酌人も鈴木先輩に引き受けていただきました。

末筆になりましたが、秋田高校陸上競技部OB会に対しましては、長年にわたり鈴木先輩から多大なご協力をいただき、ただ感謝感謝の言葉しかありません。

鈴木先輩には公私にわたり本当にお世話になりました。

ありがとうございました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

【完全予約制】　“未病を治す”
酉治療院
酉長　小林正行
秋田県潟上市天王字追分西1−20
TEL&FAX：018−872−1228

医療法人社団
中川内科・外科医院
理事長・医学博士
中川久明（昭和46年卒）
〒987-1101
宮城県石巻市前谷地字横須賀103-7
TEL 0225-72-2123

Medical Corporation JUNKEI-KAI
医療法人惇慧会
外旭川病院
理事長　穂積恒（昭和46年卒）
秋田市外旭川字三後田142
TEL 018-868-5511

140周年特集

創立140周年記念招待試合
vs秋田商

3年ぶりに野球の交流戦 好プレーにスタンド沸く

母校の創立１４０周年記念事業の一環として、４月24日秋田市の八橋運動公園で、秋田商業高校との硬式野球とサッカーの招待試合が行われた。

野球の現役の試合に先立ち、サッカー部の選手たちも加わって開会式が行われた。全校応援の両校の校歌の斉唱は圧巻だった。そして、高橋貢校長、佐々木捷生徒会長の挨拶があり、その後、秋田商業の代表に感謝の気持ちを込めた記念品の目録が贈呈された。

野球はＯＢと現役の２試合、サッカーは現役同士の１試合を行った。

開会式で高橋貢校長が挨拶の中で触れたが、両校は大正時代から野球の定期戦を行ってきた。昭和59年を最後に途絶えていたが、３年前の秋田商業創立90周年の時に復活。今回は２度目の開催となった。

ＯＢ戦では、昭和40年代前半卒から平成25年卒まで幅広い年齢層の選手たちが往年を彷彿させる好プレーを見せ、スタンドを沸かせた。試合は後半母校が逆転し、10対９で勝利を飾った。

現役の試合は雨の降る中行われたが、両校ともきびきびとしたプレーの連続で好試合となった。結果は母校が逆転で４対１で勝利した。

野球の試合としては時期的にだいぶ早い開催であったが、両校とも夏に向けて好感触を得た試合であった。

OB・現役戦とも秋高の逆転勝利

秋商選手を両側からチェックする秋高イレブン（白）

サッカー現役戦には 全校応援の熱いエール

サッカーの試合会場は八橋球場に隣接する秋田市営陸上競技場。時折雨のぱらつく空模様のなか、両チームは秋田商業が赤、秋高は白のユニフォームに身を包んで交流試合に臨んだ。

前半、秋高は２年生キーパーの再三にわたるファインセーブでゴールを死守したが、抗しきれずに先制点を許し０対１で折り返した。

後半に入っても運動量の豊富な秋田商業に対して秋高イレブンには疲れが見えだし、足が止まったところを立て続けにゴールを決められて、結局０対４のスコアで強豪秋田商業に敗れた。

しかし、秋高スタンドは全校あげての大応援。応援団の指揮のもと、生徒たちはチャンスやピンチが訪れるたびに紫色のメガホンを口元に当てて声を限りに「秋高ダイナマイト！」の熱いエールを送り続けた。

スクールカラーの紫色が曇り空によく映え、心を一つにして懸命に応援する秋高生の姿は、秋田商業の真紅の応援団に勝るとも劣らない迫力であった。

「秋高ダイナマイト！」パワー全開の全校応援

設楽産婦人科内科 したらクリニック
院長
設　楽　芳　宏
（昭和46年卒）
秋田市外旭川字前谷地43番1
TEL　018-816-0311
FAX　018-816-0312

福田胃腸科クリニック
院長
福　田　　健
内　科・消化器内科
外　科・乳腺外科
秋田市広面字家ノ下34－1
TEL　018-832-3535

人類は森から生まれた
「街に森を、緑を」
植樹ボランティア
グループ「森」
会長・川上茂樹（昭和45年卒）
石澤千秋（昭和46年卒）
林　康夫（昭和47年卒）
藤原彰人（昭和47年卒）
《事務局》018-828-3033

本間医院
院長
本　間　真紀子
（昭和46年卒）
秋田市山王中園町３－14
（中園町バス停前）
TEL 018（862）7070

つどい

楽しい宴を満喫 年齢忘れ童心に

秋中14日会

平成25年度「秋中14日会」が、東京・新宿のホテルセンチュリーで4月14日開催された。

私たちは昭和21、22年旧制秋田中学卒の現在、齢83歳の同期の桜で、在学時300人だったのが、現在では約3割の生存者となった。出席者は毎年減少し、今年は首都圏を中心に15人の参加者で、幹事役は秋田市土崎地区の汀友会が担当した。

司会役は佐藤菊夫、乾杯の音頭は野口力、会計係が舘山俊治、会場設営・写真撮影は金沢祐吉が担当し、年齢を忘れて童心に返り、和気あいあい和やかで楽しい宴となった。

秋田からは佐藤鉄男同窓会幹事が上京し、秋高創立140周年記念式典のPRと祝賀会への勧誘に熱弁をふるい、大いにムードが湧き上がった。それに加え、指揮者佐藤菊夫が編曲した小田島樹人先生の作品から15曲を選曲し、『管弦楽とソプラノ独唱、混声合唱による童謡連曲』のDVDを鑑賞、一同大喝采を贈った。最後に校歌「天上はるかに」を高唱し、次回の再会を約束して散会となった。

（佐藤菊夫　記）

賛助出演に向け 母校で応援練習

応援団OB会・紫紺の会

日中、森岳で行ったゴルフコンペの表彰を兼ねた懇親会を、8月7日秋田市の協働大町ビルで開催しました。懇親会のみの参加者と合わせ12人が出席しました。

昭和40年代前半卒業のメンバーが中心になって立ち上げた会ですが、今回は四、五十代の〝若手〟も参加。母校創立140周年祝賀会への賛助出演に向けて意気を揚げました。

8月14日には有志が母校に集合し、校歌と校友会歌の練習会を行いました。卒業から数十年のブランクを感じさせない動きや声を披露し合い、「9月1日」の役割分担等を確認しました。

（昭和55卒　保坂尚吾　記）

酒酌み交わし 79人の大盛会

42会同期会

平成25年9月7日、昭和42年卒同期会「42会」が協働大町ビルで開催された。毎年9月の第一土曜日を定例とする！　と決めてから3年目。折り悪く土崎中学校卒業50周年同期会と重なり参加者数が危ぶまれたが、何と昨年より7人多い79人の参加となった。

恒例の記念撮影の後、池田元応援団長の現役さながらの指揮のもと校歌斉唱（5番まで）。恩師武田武志先生のご挨拶に続き、今年初めて高知県から参加した千葉徹君のスピーチで乾杯。千葉君は病気を患い奥様が付き添っての参加であった。

65歳を迎えたのに一向に酒量は落ちる気配もなく、あちこちで話の輪が広がり、大盛会であった。最後に、全員で校友会歌を合唱、それではまだ物足りないと再び校歌を大合唱し、来年9月6日の再会を誓い解散した。

（鎌田　壽　記）

昼は体育、夜は 賑やかに懇親会

32会総会

平成25年度総会が9月30日、メトロポリタン秋田において34人の出席者（県外出席者6人）で開催されました。日本政府認定の後期高齢者の仲間入りをし、それぞれ元気よく参集しました。

日中は恒例により、体育の時間として太平山カントリークラブで白球を追いかけ、エージシューターが出現するなど元気な75歳ぶりを披露しました。

総会は卒業以来初、住居不明者名簿から復活した藤田潤平氏の乾杯で、例年どおり明るく楽しい賑やかな懇親会となりました。

中締めは副会長佐々木信吾氏の「来年は喜寿である！必ず出席されたい！」の音頭で校友会歌を大合唱‼　ホテル内の2次会へと移動しました。

（國安志郎　記）

ふるさと秋田を見直す好機に

33会総会

今年の例会は140周年記念式典の前日8月31日、ホテルメトロポリタン秋田で、恩師畑澤潤一先生をお迎えし、41人（うち東京同窓会7人、近畿支部2人）の出席で開催。

総会に先だち当日の午後、19人がガイドの名解説を聞きながら、ねぶり流し館や鉱業博物館、羽城館などをじっくりと見学、ふるさと秋田を見直す好機となりました。

総会は阿部幹事の司会で始まり、物故者への黙とう、校歌斉唱、会務報告などが行われ、特に140周年記念の募金事業に対して多くの会員の協力があったことに謝意が示されました。

畑澤先生からの温かい励ましの言葉をいただき、兵庫県から参加した勝平良治君の乾杯で懇親会を開始。しばらくぶりの再会に時の経つのを忘れあちこちに輪が広がり、楽しいひとときを過ごすことができました。

宮崎幹事による校友会歌を熱狂の中、全員で2回大合唱。中田幹事が「来年はもっと多い50人以上の会員と語りあおう」と締めくくり、再会を誓って散会しました。

翌日、記念式典には21人が出席、有意義な一日となりました。

（佐藤満雄　記）

絵本歌集で合唱 56人再会楽しむ

若菜会の集い

平成25年10月14日、さわやかに晴れわたった体育の日、秋田キャッスルホテルで若菜会の集いが開催されました。県外からの9人を含め女子2期生（昭和30卒）から17期生（昭和45卒）まで56人が出席しました。

今回は昭和42年卒が担当幹事で、東京でボランティア活動をしている工藤ますみさん（昭和35卒）から送られた絵本歌集のやさしい絵を見ながら合唱を楽しみました。今村和佳奈さん（平成8卒）のピアノ演奏や伴奏で懐かしい歌を高らかに歌い、会場は大いに盛り上がり、大層和やかになりました。

その後、懸案の若菜会の今後について話し合いました。事前に各年次から寄せられた意見では、若菜会が女子生徒の増加によって消滅した昭和45年卒の幹事担当年で自然消滅、発展的解消も仕方がないというのが多数でした。

しかし、今回の話し合いの中で、若菜会が創立され消滅した経緯と昭和51年に秋高女子卒業生の親睦会として同窓会支部若菜会が再出発したいきさつが紹介され、出席者は若菜会への認識を新たにしました。

そして、45年卒までは各年次で担当し、その後については何らかの方法で存続させ、存続の仕方については同窓会の女性役員を中心に原案を示してもらうことで40分にわたる話し合いにピリオドを打ちました。

自然消滅も仕方がないと考えていた方々も、懐かしい友との再会や思いがけない同窓生との出会い、そして楽しい会の雰囲気の中で、やはりこの会を是非続けたいという思いを強くして散会しました。

（昭和42卒　清澤三代　記）

談笑に包まれ 37回目のつどい

昭和25年卒同期会

昭和25年卒第37回同期会は、ゲリラ豪雨などですっきりしない9月21日、秋田市の協働大町ビルに会員34人のほか賛助会員ら4人も参加してにぎやかに開催された。

校歌に続いて同期会歌を斉唱、故人となった仲間に黙とうを捧げた。代表幹事の大友康二君の挨拶の後、能代市在住の竹内伸之君の乾杯の音頭で祝宴に入った。会場は終始談笑に包まれ、余興の出る幕がないまま予定の2時間があっという間に過ぎて、来年の再会を約束して散会した。

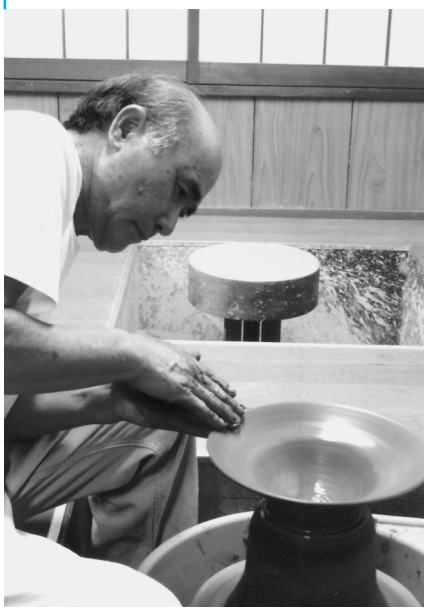
（田中孝一　記）

おのば高橋小児科クリニック
院長
高橋　康
（昭和55年卒）
秋田市仁井田字中新田78
TEL 018－892－6600

深秋随想

備前焼の創造的魅力を追求

山根義秋
（昭和42年卒）
陶芸家



岡山県の備前焼の歴史は古く、千年以上もの長きにわたります。備前市伊部には平安時代中期からの古窯跡群が点在し、千年もの間絶えることなく窯焚きの煙がたなびいてきました。風情ある歴史を醸し出しています。

私は子どもの頃から物づくりが好きで、特に工作など自分で工夫を凝らしていろいろな物を作って楽しんでいました。中でも模型飛行機作りが大変得意で、田んぼへ出ては日がな一日、夢中になって遊んでいました。飛行機作りが大好きでしたので一時はパイロットを夢見たこともあります。

やきもの作りも創意工夫しながら作品を制作する仕事ですので、子ども時分の物づくりへの興味が今日の自分を形成しているように思います。高校を卒業し上京して学生生活を過ごす中で、私はいろいろな芸術に接することができました。特に絵画・彫刻といった美術のほか歌舞伎や文楽、新劇なども鑑賞しました。さらに工芸では陶芸や漆芸など気の向くままにあらゆる分野の芸術を楽しんでいました。

その中でも特に小林秀雄や白樺派の作家などの骨董や陶芸に関する評論を読み進めていくうち、やきもの作りへの興味が深くなっていきました。数多くの美術館を巡ってわが国をはじめ中国、韓国などの古今の名品に接することができ、そこで得た知識が今日大変に役に立っています。

知人の紹介もあり、昭和48年、縁あって備前焼の人間国宝山本陶秀先生の門を叩きました。先生の指導の下に4年間の修業時代を過ごしましたが、当時はまだ徒弟制度的な雰囲気も残っており、自身のロクロの修得も兼ねて朝8時頃から夜の10時過ぎまで仕事に明け暮れる日々でした。修業1年目に取った休日は年間たった1日だけで、早く技術を身に付けて自分なりの物づくりをしたいとの思いを強くしました。

やきもの作りの技術は教えられて身に付くものではなく師の技を見て覚え、体に叩き込むのが基本です。その後、陶磁器意匠研究所で1年間の研究生活を送り、昭和53年に現在地（岡山県真庭市富尾）に登り窯を築いて独立し今日に至っています。

やきもの作りを始めて四十数年になりました。物づくりの仕事は本当に楽しいものですが、創造することの困難を日々痛感する試行錯誤の連続です。制作する作品は多岐にわたっています。造形的な長器や茶道具、また料理が好きなため創作的な食器なども作って楽しんでいます。備前焼では珍しい「叩き」の技法を用いた大壺のほか昨年からはスイスの抽象画家パウル・クレーの転写技法を応用した作品に点線紋様を施す技法も試みています。全長9メートルの登り窯で80年以上にも育った赤松の割木を使用し、昼夜交代で2週間の窯焚きをします。最高温度は1215度ぐらいで、一度に約千点もの作品を焼成します。備前焼の特徴である無釉・焼き締めの味わいを出すために焼成には赤松の割木（二尺）を1600束使用します。

やきものは見て味わい、使って楽しむことが本来の姿です。日本の伝統文化である茶道や華道、そして料理などの器として生活を豊かにする作品作りを私は心がけています。備前焼は長い伝統がありますが、常に新しい創造性を持って制作することが大切です。伝統文化とは古い形式を継承しつつ同時代的な創造を試みることであると私は考えています。

わが国の工芸は高い技術と深い美意識のもとに創造された世界に誇れる芸術であると確信をしております。私はこれからも皆さまに楽しんでいただけるやきもの作りに精進したいと考えています。

けやき通り歯科医院
院長
大島卓哉
（昭和56年卒）
秋田市八橋本町3丁目14－14
TEL 018－864－6322

KATO KENSETU 郷土の未来を創造する
株式会社 加藤建設
代表取締役 加藤正己（昭和56年卒）
取締役副社長 加藤亮（昭和60年卒）
総務課長 鎌田均（昭和56年卒）
秋田県男鹿市払戸字小深見1
TEL0185－46－3105 FAX0185－46－3106
http://www.katokensetu.co.jp

泌尿器科・内科・血液透析
医療法人 あけぼの会
花園病院
院長 寺邑敏彦 内科 寺邑朋子 泌尿器科 寺邑能實（昭和56年卒）
診療時間 平日／AM8:30～12:00 PM1:30～5:00
土曜日／AM8:30～12:00 午後休診
TEL 0187－63－3100㈹
大仙市大曲あけぼの町9－26（大仙市役所より約500m西）

処方せん調剤
二木薬局
潟上市昭和大久保
TEL 018－877－2333
FAX 018－877－2384

一輪車競技の魅力を伝えたい

3年A組　佐藤　春佳

私が所属する白百合保育園一輪車クラブは現在、小学1年生から高校3年生まで62人で活動しています。練習は毎日午後4時半から7時頃までです。

7月15日、東京・国立競技場代々木第二体育館で、2013さわやか全日本一輪車競技大会演技部門が開催されました。結果は秋高生5人を含む16人で出場したグループ演技で総合優勝（3連覇）、2年B組の山田華子と組んだペア演技で準優勝（2年連続）でした。

この大会の結果は新聞などにも取り上げられ、佐竹県知事をはじめたくさんの方々からお祝いの言葉をいただきました。8月4日に開催された発表会には、1200人を超える方々が見にきてくださいました。観客の皆さんの盛り上がりで、楽しく踊ることができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

高校3年間の競技生活を振り返ると、最も思い出深いのは、昨年7月にイタリアで行われた第16回国際一輪車競技大会です。この大会ではソロ演技で準優勝、北海道の選手と組んで出場したペア演技で優勝を手にすることができました。世界大会ならではの興奮を味わえたことに加え、日本でも世界でも自分の演技を堂々と披露できたことは、自分を大きく成長させたと思います。

次の目標は、来年夏にカナダのモントリオールで開催される世界大会です。

一輪車は、まだまだマイナーな競技ですが、将来は活動の場を少しずつ広げながら、その魅力をより広く発信していけたらと思っています。

柔道男子団体もインターハイ連続出場

3年C組　成田　大祐

柔道部は男子団体で2年連続インターハイ出場を決めました。自分にとっては共に闘ってきたメンバーとの最後の試合。

インターハイバドミントン団体で男女W出場の快挙

初めてのインターハイ

バドミントン女子団体

3年A組　嶋田　美里

インターハイの会場は想像以上に大きくて独特の雰囲気を持っていました。私は第一複で、少しでもコートマットの上に立とうとペアと決めて試合に臨みました。

前半は今までにない緊張でガチガチでしたが、後半は練習してきたことを出せたし、大舞台を楽しむことができました。結果的に1回戦で負けてしまいましたが、秋高バドミントン部で本当に良かったと思いました。本当にありがとうございました。

【注】女子団体のインターハイ出場は、平成11年の弓道以来14年ぶり。

周囲の方々に感謝

バドミントン男子団体

3年E組　栗山　孝太

バドミントン競技は福岡県北九州市で開催されました。結果は1回戦で敗れましたが、選手一人ひとりが自分の仕事をしたい試合でした。

また、これまでの練習の成果をしっかりと発揮でき、自分では満足のいく内容でした。これまで指導してくださった先生方、支えてくれた方々、本当にありがとうございました。

3年連続全国大会へ

バドミントン男子個人

3年C組　水ノ江慎兵

この夏、東北大会が終わってから、自分にとって高校最後の大会となるインターハイで全ての力を出し切るために練習に練習を重ねてきました。

迎えた本番、一昨年、昨年に続き3回目のインターハイは、全国のレベルの高さをあらためて痛感する結果となりました。厳しい試合ではありましたが、負けじと戦った記憶だけは鮮明に残っています。

一生懸命にご指導くださった監督、応援してくださった方々、ありがとうございました。

全国の強豪校を相手に選手全員が持てる力を全て出し切ったという点で、最高のインターハイだったと思っています。

応援してくださった方々、本当にありがとうございました。

試合に臨む成田選手

物理チャレンジ、化学グランプリで共に銅賞の快挙

合谷木諒君（左）と伊藤知輝君

100人の1人として

3年H組　合谷木諒

物理チャレンジ（第2チャレンジ）は、全国から100人、3泊4日の日程で筑波にて行われた。当初日程を聞いたときは理論問題と実験問題が5時間ずつということに驚いたが、実際はあっという間の10時間であった。

高校で学ぶ物理にベースを置きながら、大学での物理の世界を垣間見るような経験であった。結果については自分では好成績を出す自信はなかったのだが、銅賞という形で上位に食い込むことができ、とてもうれしかった。

また、4日間にわたって全国を勝ち抜いてきた強者たち、筑波大学の先輩方、NIMS（ニムス＝独立行政法人物質・材料研究機構）の研究者等と交流して、非常によい刺激を受けた。特に4日間寝食を共にした仲間たちとまた大学で会えるよう、日々の努力を大切にしたい。

【大会解説】

物理チャレンジとは、主に高校生以下の生徒を対象にした物理のコンテストです。予選である第1チャレンジ（6月）と全国大会である第2チャレンジ（8月）があり、それぞれ理論問題と実験問題が課され、全国大会で優秀な成績を収めた生徒には、翌年の国際物理オリンピックに出場する権利が与えられます。毎年5人が日本代表として出場し、好成績を残しています。

今年、本校からは3年生の合谷木諒君が全国大会へ進み、見事銅賞を獲得した。3年生ということで翌年の物理オリンピックへの出場とはなりませんでしたが、本県初の銅賞獲得という快挙に、学校中が大いに盛り上がりました。

化学の楽しさを再確認

3年H組　伊藤　知輝

今夏、化学好きが実を結び、化学グランプリで銅賞を獲得した。2次選考では高校化学の難度を超える問題が出題されるが、自己の知識を元に実験や考察をしていく過程で、全国との実力の差を痛感した。

また、一方で、最先端の研究や機器に触れ、全国の科学者の卵と交流する機会となり、化学の楽しさをあらためて実感することができた。

全国の精鋭と化学について語った経験は貴重な財産になると思う。将来彼らと同じ舞台で活躍する日を夢見て自強不息の精神で勉学に励みたい。

【大会解説】

化学グランプリ（旧称・全国高校化学グランプリ）は、「夢・化学―21」委員会、公益社団法人日本化学会の主催により1999年から行われています。

15回目となる今年の化学グランプリの1次選考は、マークシート式の試験で7月15日の海の日に全国61会場で実施され、過去最高の3481人が参加しました。さらに、1次選考を通過した参加者を対象に、8月23・24の両日に東北大学で2次選考が実施されました。2次選考は実験を伴う記述式の試験で、最終的に1次選考と2次選考の総合成績で評価されます。

化学グランプリで上位の成績を収めた高校2年生以下の生徒は、来年ベトナムで開催される第46回国際化学オリンピックの代表候補に推薦されます。

短歌甲子園最優秀作品賞　題「聞く」

夕焼けに飛行機雲のごと伸びる　フルートを聞く　階段半ば

自分らしく詠めた

2年D組　松岡　美紗

この度いただいた最優秀作品賞は、個人戦出場者が二首ずつ詠んだ短歌のうち、一般投票で選ばれた十二首から、審査員の評価が最も高かった作品に与えられるものです。自分の短歌が日本一になったという実感はまだ湧きませんが、この受賞を励みに今まで以上に良い歌を詠んでいきたいです。

今回の大会では団体戦も決勝の舞台へと進むことができました。惜しくも優勝を逃しましたが、最後まで自分たらしい作品を詠むことができ、悔いはありません。指導してくださった先輩方へ感謝してもしきれません。

寄贈図書

「獨楽庵切抜帖」6～10月号　冨野巳代治（昭7卒）

「秋高32会　平成24年9月7日（金）」　秋高32会（昭32卒）

「アメリカの保守とリベラル」　佐々木　毅（昭36卒）

「Q君とA先生の素朴で奥の深～い物理問答」　伊藤　一郎（昭37卒）

「山岳・音楽・文学」　川島　由夫（昭37卒）

「茶のない茶道」　岡村　時雄（昭41卒）

「小さな事業者の破産と借金整理」　高橋裕次郎（昭44卒）

事務局だより

寺田和夫事務局長が、9月30日付で退任しました。その後任として、10月1日から事務局長代行を委嘱された昭和46年卒佐藤英明と申します。よろしくお願いします。

140周年記念式典・祝賀会は、成功裏に無事終了いたしました。皆様からの多大なご協力に心から感謝、お礼申し上げます。

ところで、今年のノーベル平和賞が10月11日に発表され、化学兵器禁止機関（OPCW）が選ばれました。このOPCWの査察チームリーダー藤井雅行さんは、本校平成2年卒です。本校関係者がノーベル賞を受賞するのは初めてです。その快挙を同窓生として非常にうれしく思います。

また、今年の夏は、異常気象で、ゲリラ豪雨や竜巻がニュースを賑わせました。この竜巻は、日本でこそ大きなニュースになるものの、アメリカでは、日常茶飯事でニュースにならないことが多いそうです。

ということで、竜巻の研究は、アメリカが世界の最先端だそうです。そのアメリカで、竜巻予知の第一人者がオクラホマ大学佐々木嘉和名誉教授で、本校昭和19年卒の同窓生です。アメリカの竜巻多発地帯を舞台とし、危険な観測に挑む竜巻研究者夫婦の姿を描いた「ツイスター」という映画の主人公のモデルも佐々木嘉和名誉教授だといいます。

もし、ノーベル賞に気象部門があったら、佐々木嘉和名誉教授が受賞したかもしれません。秋田高校卒業生は、世界をもリードしています。

以上、ノーベル賞がらみの二つの情報提供が事務局にありました。

哀悼

（失礼ながら敬称は省略させていただきました）

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成22年
4月　八柳　一夫（昭29）
5月　沓沢　尚之（昭16）
　　佐藤　等（昭47）
6月　有坂洸太郎（平12）
11月　伊勢　啓一（昭11）

平成24年
2月　髙橋　信（昭46）
5月　新岡　丈（昭54）
7月　野手　正吉（昭13）
8月　金　重男（昭26）
　　越後谷金雄（昭28）
　　田中　洋司（昭37）
10月　中村　淳朗（昭12）
　　山田　宗一（昭16）
11月　太田　義男（昭21）
12月　大西　宏（昭20④）
　　小西　寿一（昭23）
　　藤田　英夫（昭27）
　　村上　雅英（昭32）

平成25年
1月　梅原　文夫（昭18）
　　藤原　正夫（昭19）
　　菅原　昭男（昭23）
2月　佐々木正勝（昭11）
　　幸野　嘉吉（昭18）
　　佐藤　信夫（昭20④）
　　佐藤　光一（昭26）
　　池田　恭二（昭30）
　　金野　陽一（昭30）
　　桜田　侑宏（昭30）
　　太田　清勝（昭38）
3月　野口　養吉（昭19）
　　加藤　有規（昭23）
　　道山　允（昭26）
　　門脇征矢男（昭26）
　　関谷　敬喜（昭29）
　　今　行雄（昭11）
4月　安倍祁太郎（昭11）
　　関　善一（昭11）
　　中川　重徳（昭15）
　　九嶋　廣政（昭21）
　　加賀谷　強（昭26）
　　五十嵐大之（昭27）
　　櫻田　昌（昭29）
　　小松　進（昭29）
　　鈴木　喬（昭29）
　　高橋　邦雄（昭31）
　　仲野谷祐介（昭32）
　　間杉喜栄治（昭34）
　　大島光太郎（昭40）
　　藤原　秀明（昭41）
　　田口　善郎（昭46）
　　浪岡　淳（昭59）
5月　伊藤　晴康（昭19）
　　長谷川吉宏（昭25）
　　斉藤　龍男（昭26）
　　小野岡　茂（昭31）
　　橋本　国晴（昭39）
　　五十嵐武士（昭40）
　　岩見谷周志（昭42）
6月　宮越　道晃（昭20④）
　　沼倉　暁（昭20④）
　　三浦　金男（昭25）
　　熊地冨士夫（昭25）
　　谷藤　昭夫（昭25）
　　三船　弘雄（昭32）
　　播磨屋勝生（昭38）
　　進藤　龍生（昭45）
　　岩田　望（昭58）
7月　武田政二郎（昭17）
　　加藤　昭典（昭20④）
　　飛田良太郎（昭20⑤）
　　佐藤　金勇（昭25）
　　矢野　浩（昭26）
　　金子　昭二（昭32）
　　熊井　鉦治（昭33）
　　藤岡　宜介（昭38）
　　田中　満（昭45）
8月　丸山　正治（昭21）
　　湯川　雄二（昭26）
　　佐々木由行（昭26）
　　辻　保一（昭38）
　　岩川作丕圖（昭39）
　　加賀谷　誠（昭43）
9月　宮田　敏正（昭17）
10月　佐藤　勘一（昭17）

※（　）内の表示は卒業の年。
※（昭20④）は旧制中学を4年で卒業したことを表す。

編集後記

▼140周年記念事業関連に多くの誌面を割いた。同窓各位には別刷り広報とあわせて、節目の事業全体像がお分かりいただけたのではないかと思う▼メルボルンオリンピックの日本代表にして母校の大先輩、故鈴木重晴氏の足跡を紹介した。貴重な写真は長女雅子さんの提供による。往時の活躍をしのびつつご冥福を祈る▼理不尽な武力衝突の犠牲になって満足な医療を受けられずに路頭に迷う子どもたちが世界中で後を絶たない。秋田から国境なき医師団に身を投じて人道支援に立ち上がった菅原美紗さん。身の危険を顧みず紛争地域に分け入る医師としての責任感、心の強さ、勇気ある行動力に胸を打たれる。（消息筋）

発行者　秋田県立秋田高等学校同窓会
秋田市手形字中台一番地
電話018(832)9553
印刷　武内印刷株式会社